

## 神津島の火山活動解説資料（令和6年4月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1）

前浜南東監視カメラ（天上山の南西約3km）による観測では、天上山山頂部に噴気は認められません。

#### ・地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）

神津島及びその周辺の地震活動は低調に経過しました。  
低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図2-③~⑥、図4）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 神津島 天上山山頂部の状況  
（4月28日、前浜南東監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

今回の火山活動解説資料（令和6年5月分）は令和6年6月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています。

【計数基準の変遷】  
 A型地震：2010年10月1日（観測開始）～ 天上山西から半径5km、深さ15km以内  
 BH型地震：2010年8月2日～2013年9月30日 天上山西上下動振幅0.8 $\mu$ m/s以上  
 2013年10月1日～ 天上山西上下動振幅4.0 $\mu$ m/s以上

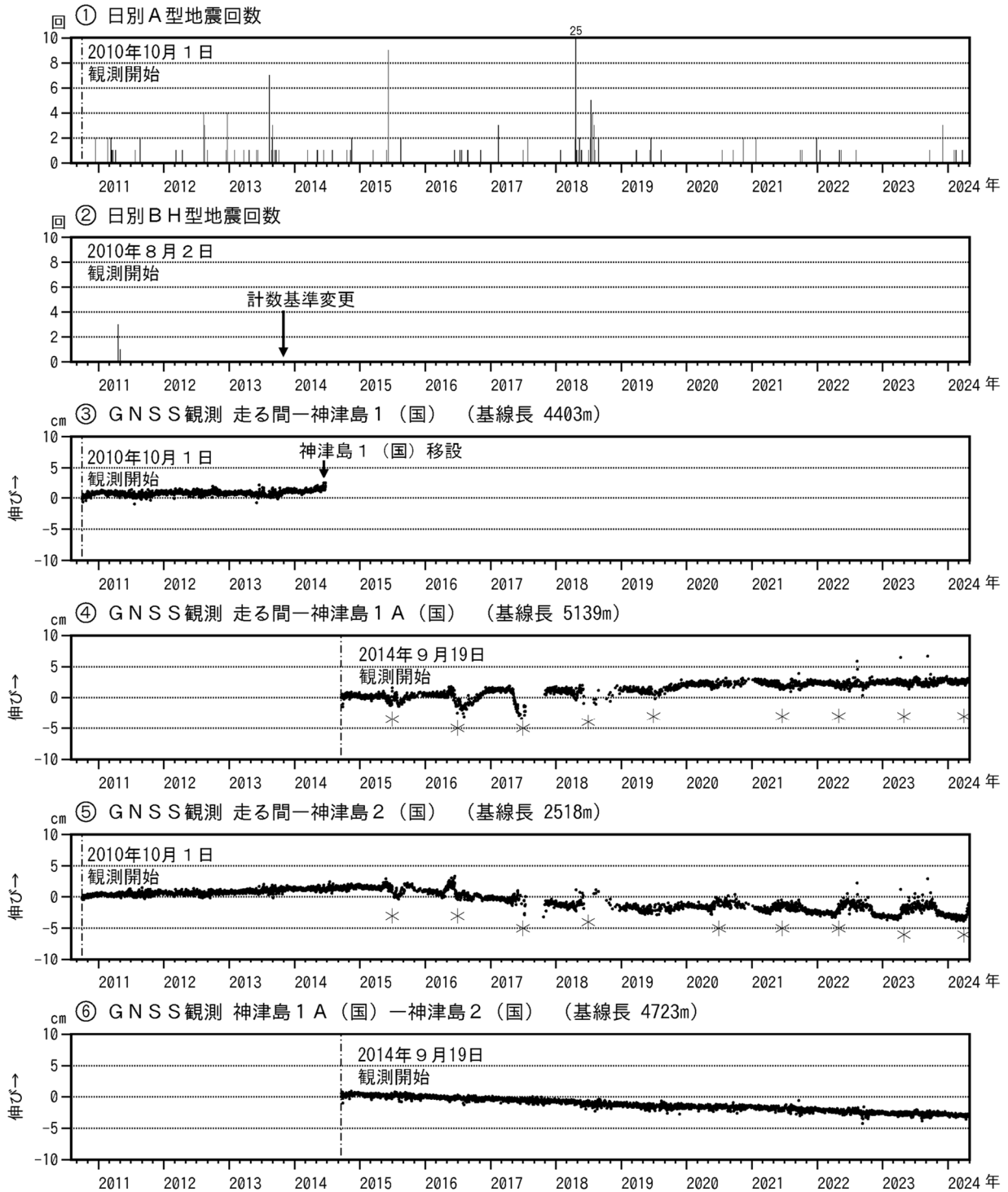


図2 神津島 火山活動経過図(2010年8月2日～2024年4月30日)

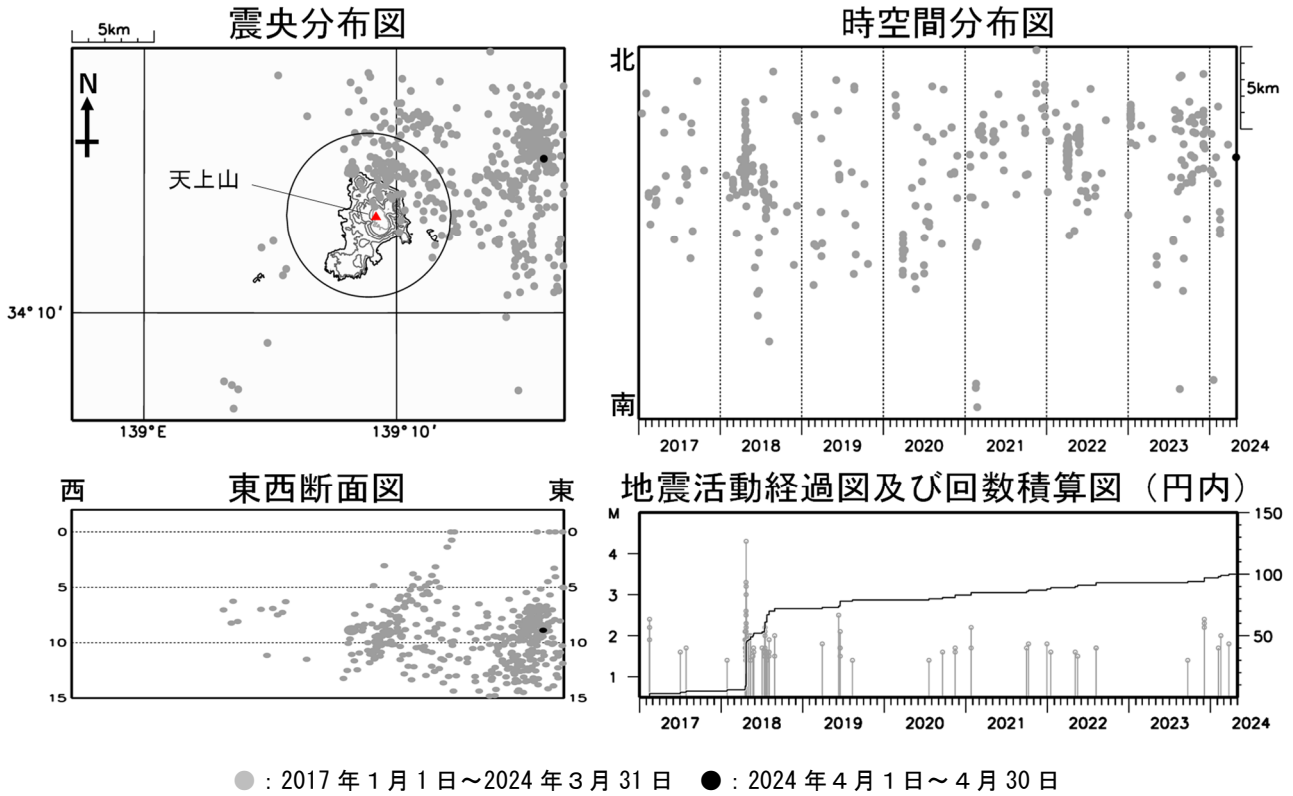
③～⑥：図4のGNSS基線③～⑥に対応しています。空白部分は欠測を示します。

④⑤：\*の部分は、走る間観測点付近の植生による影響です。

2014年9月19日に、神津島1（国）は、神津島1A（国）に移設されました。

（国）：国土地理院

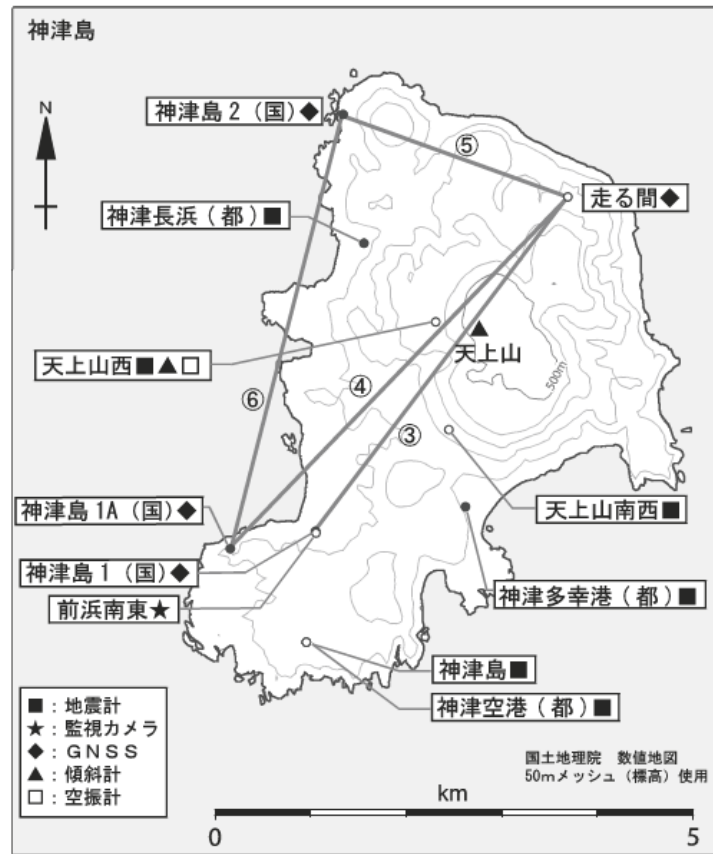
- ・地震活動は低調に経過しています。
- ・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



● : 2017年1月1日～2024年3月31日 ● : 2024年4月1日～4月30日

図3 神津島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2017年1月1日～2024年4月30日）  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.4以上の地震を示しています。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 計数対象（天上山西から半径約5km、深さ約15km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別A型地震回数とは異なります。  
 震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（天上山西から半径5km、深さ15km以内）の範囲を示しています。  
 この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。

・地震活動は低調に経過しました。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(都) : 東京都

図4 神津島 観測点配置図

GNSS 基線③～⑥は図2の③～⑥に対応しています。  
 神津島1から神津島1Aに2014年9月19日移設。